

# 令和5年度 特別支援学校寄贈物品 使用状況報告書【2年目】

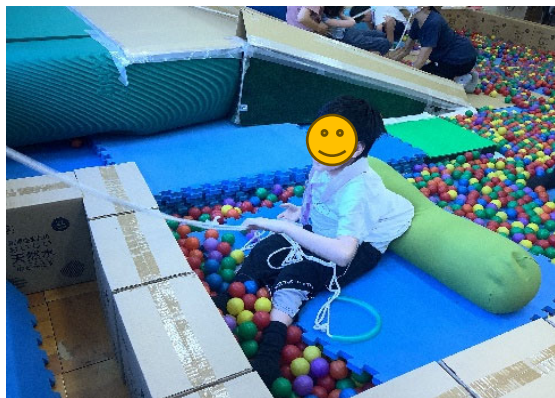
報告日 令和7年11月25日

P T A名		静岡県立静岡南部特別支援学校 P T A	
学校	対 象	<input type="checkbox"/> 視覚障害 <input type="checkbox"/> 聴覚障害 <input type="checkbox"/> 知的障害 <input checked="" type="checkbox"/> 肢体不自由 <input type="checkbox"/> 病弱	
	設 置 部	<input type="checkbox"/> 幼稚部 <input checked="" type="checkbox"/> 小学部 <input checked="" type="checkbox"/> 中学部 <input type="checkbox"/> 高等部	
	全校児童・生徒数	11人	

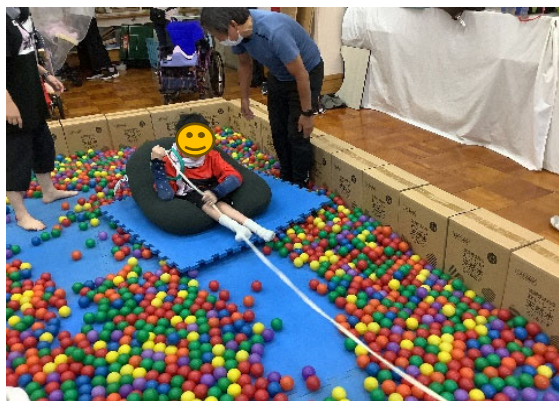
## 1. 使用状況

寄贈物品名	座位サポートクッション
使用学年及び人数	通学生(小学生4人 中学生1人)、 訪問生4人
使用頻度	毎日、スクーリング時(不定期)
使用状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>自立活動や生活単元学習など車いすから降りて活動するときによく使われている。毎日の体操にも使用している。</li> <li>訪問生のスクーリングで、スヌーズレンの一つのコーナーとして設置した。座位サポートクッションの上で横になり、教室内の天井に映された明かりを眺めて楽しんだ。</li> </ul>
物品の使用による変化や効果	<ul style="list-style-type: none"> <li>クッションが大きくて安定しているため包み込むようになり、児童生徒が安心して体を預けられる。トランポリン、滑り台など姿勢が崩れがちになる学習時でも安定した姿勢を保っていられる。体に沿って座位サポートクッションが支えてくれるので安定感があり生徒が力を抜くことにつながった。四肢に障害があり、拘縮や変形のある児童生徒の身体に合ったサポートができるため、リラックスして学習に参加できる。</li> <li>クッションが大きいので、真ん中に入り、腕を出すと肘置きようになり、姿勢を保持しやすい。</li> <li>一日中車いすで生活すると疲れてしまうが、クッションがあることで学校でも車いすから降りることができ、児童の心身の安定につながっている。</li> </ul>
今後の活用の見通しや課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>様々な変形や拘縮、首の座らない非定頸のある児童生徒の入学が予想される。そのような子供たちの身体をサポートし、リラックスして学習に臨めることが期待できる。今後もこれまでのように使用していきたい。</li> <li>経年劣化でクッション性がだんだん落ちてくる。中のビーズも高価なため簡単には交換できない。</li> </ul>
その他希望や所感など	<ul style="list-style-type: none"> <li>このクッションを日々使用し、授業に向ける姿勢保持を意識している。必要不可欠なものであると感じ、感謝している。</li> </ul>

## 2. 活用の様子



- 自分で座位をとったり、維持したりすることが難しいが、クッションがあることで安定して座ることができる。背中に大きなこぶがある生徒が、こぶが床面に当たらないように座位姿勢をとって活動することができた。
- 毎日の体操でも使用している。



- 安定感があり、ロープを引っぱっても姿勢が崩れることなく安心して思い切りボールスライダーを楽しむことができた。



- クッションがあることで滑り台を座位で滑ることができた。背中のこぶがこすれてしまわないように、姿勢を保つことができ、安心して繰り返し滑り台で活動することができた。
- クッションを使うことで、車いすから降りての活動が充実した。



- スヌーズレンでゆったりとした音楽と天井や壁に映された明かりを座位サポートクッションの上に寝ながら楽しむことができた。身体の緊張を緩ませることができた。